

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	International Retrospective Cohort Study of Locoregional and Systemic Therapy in Oligometastatic Breast Cancer 希少転移乳癌の局所及び全身療法に関する国際共同後向きコホート研究
研究責任者	主任研究者:杏林大学医学部付属病院 乳腺外科 井本 滋 当院研究責任者:乳腺科 吉田 雅行
研究実施体制	FACO(アジア臨床腫瘍学会機構)が共同して日本、中国、韓国で実施する国際共同研究です。日本では、日本癌治療学会所属医師が在籍する医療機関で実施されます。本研究のデータは、岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター DM部門に集積されます。
研究期間	2018年2月1日～2020年6月30日
対象者	2005年から2012年までに再発乳がんと初めて診断された方で、診断時に脳転移を除く5ヶ所以下の転移巣を認め、全身療法、あるいは局所療法と全身療法を受けられた方を対象とします。
研究の意義・目的	<p>乳がんは手術療法に薬物療法と放射線療法を適切に組み合わせて治療されます。手術療法と放射線療法は局所療法と言われ、薬物療法は全身療法と言われています。日本人女性の乳がんの5年生存率は約9割と報告され、他のがんに比べて治癒が期待できます。しかし、術後に再発した乳がん(再発乳がん)は治癒することは困難であり、再発巣の増大や進行を抑えて、再発前と同じ生活を維持することが目標となります。</p> <p>再発乳がんの治療は薬物療法(全身療法)が基本です。理由は、全身に広がった癌細胞を手術療法や放射線療法の局所療法で治すことは不可能であり、温存した乳房内の再発や限られたリンパ節の再発での外科療法を除いて、転移巣を切除しても生命予後(余命)を改善することはできません。しかし、ある種の再発乳がんは進行が遅く、発見時点で再発巣の数が少ない場合は手術療法や放射線療法などの局所療法も有効であると報告されました。このように転移巣が少ない再発乳がんを希少転移乳がんと言います。全身にがん細胞が広がっているにも関わらず、希少転移乳がんではなぜ局所療法が有効なのかまだ分かっていません。そこで、治癒の可能性のある再発乳がんを検討すべく、希少転移乳がんの方を対象に局所療法と全身療法を加えることで生命予後が改善されるかどうかを検討することとなりました。</p>
研究の方法	本研究の対象となる方にどのような治療がなされどのような効果があったのかを、患者さんのカルテから収集できる情報を用いて分析します。 収集されたデータは岐阜大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究推進センター DM

	部門に集積されます。収集されたデータは研究が終了し研究事務局から指示されるまで各医療機関の研究責任者によって厳密に保管されます。保管期間終了後は本研究に関する資料と情報を匿名化のまま廃棄します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 乳腺科 (氏名)吉田 雅行 TEL:053-474-2222(代表) 乳腺科外来 9:00~17:00 平日